

インバウンドにおける オーバーツーリズム問題

GWが始まりました。今回はインバウンド（訪日外国人旅行者）について解説します。

《インバウンドの現状》

コロナ禍で落ち込んだ訪日外国人旅行者は急速に回復し、2024年は過去最高を記録。年間3,687万人に達し、さらに今年は大阪・関西万博の効果もあり、4,100万人超が予想されています。すでに今年1月は約370万人と単月として過去最高を大幅に更新。インバウンド消費額は8兆1395億円（過去最高）にのぼり自動車産業に次ぐ規模の大きな経済効果をもたらしています。

《インバウンドの課題》

①オーバーツーリズム
京都、浅草、奈良、宮島などで観光公害が深刻化。公共交通の混雑、ゴミ問題、マナー違反の観光資源の劣化（歴史的建造物の損傷等）などにより、地域住民の生活や自然環境、景観などに負の影響を与えています。

②受け入れ体制の不足
慢性的な人材不足により、宿泊施設や飲食店でのサービス提供が追いつかず、質の低下の懸念。公共交通のキャパシティ不足も顕在化。

③地域格差

観光客が人気観光地に集中し、地域格差が顕著に。各地の観光資源の認知度アップやアクセス向上が課題。

④持続可能性

観光資源の保護と経済効果のバランスが難しく、短期的な利益追求による環境負荷が懸念されます。

《日本のオーバーツーリズム対策》

観光客の分散化のため、全国各地の観光資源の認知度を上げる必要があります。過度な混雑防止のため、日本遺産や観光名所への入場制限や予約制の導入も一案。観光税を強化し、収益をインフラ整備や多言語化に活用することもあり得ます。また、AIカメラなど技術を活用し、無断侵入対策など安全対策も。これらを実効性あるものにするために、行政、住民、観光事業者、NPOなど多主体が連携し、地域ごとの課題を協議する場が必要です。

昔、私が拠点としていたスペインのバルセロナは、人口160万人の街に年間1,560万人の観光客が訪れる一大観光地です。他方で、オーバーツーリ

山本左近の活動はこちら



H.P.

ズムが問題となり、2024年7月、「バルセロナは売り物じゃない」と訴える住民デモが発生。観光客に水鉄砲を向けるなど、抗議が過激化しました。それを受けて市や州政府は、オーバーツーリズム対策として、「観光税の引き上げ」「民泊の事実上禁止」「クルーズ船の寄港数削減」「混雑の少ない周辺地域への誘客」などの対策を導入しました。

ここ東三河の観光ポテンシャルは高く、まだまだ伸び代があります。他方で、オーバーツーリズム対策を今から考えることが重要です。**量より質を重視した持続可能な観光モデル**を考えることは、観光客のためのみならず地域に暮らす皆様の利便性や地域の活性化に繋がります。地域住民、行政、事業者が連携し、観光資源の保護と経済効果のバランスを図ることが、観光立国の未来を明るくする鍵となります。引き続き尽力して参ります。

前衆議院議員



不屈の
三河武士

《やまもと・さこん》

愛知県豊橋市出身。1982年7月9日生まれ。42歳。豊橋南高校卒業、南山大学。11歳、レーシングキャリアスタート。19歳、単身渡欧。24歳、当時日本人最年少F1ドライバーデビュー。30歳、帰国後、医療介護福祉の世界に。医療法人・社会福祉法人さわらびグループの統括本部長就任。2019年第25回参議院議員通常選挙（比例代表）に自民党公認で立候補し、落選。2021年第49回衆議院議員総選挙（東海ブロック比例代表）に自民党公認で立候補し初当選。当選直後から、合成燃料の国産化の必要性を訴え、3年以内に日本初の実証プラントの稼働を実現した。また、2022年8月、初当選後一年に満たない中、文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官に異例の抜擢。科学技術・文化の担務を中心に活躍。2024年第50回衆議院議員総選挙に自民党比例代表で2期目に立候補するも落選し現在に至る。英語、スペイン語を話すマルチリンガル。

インバウンド/アウトバウンド

訪日外国人旅行者数 インバウンド

2024年

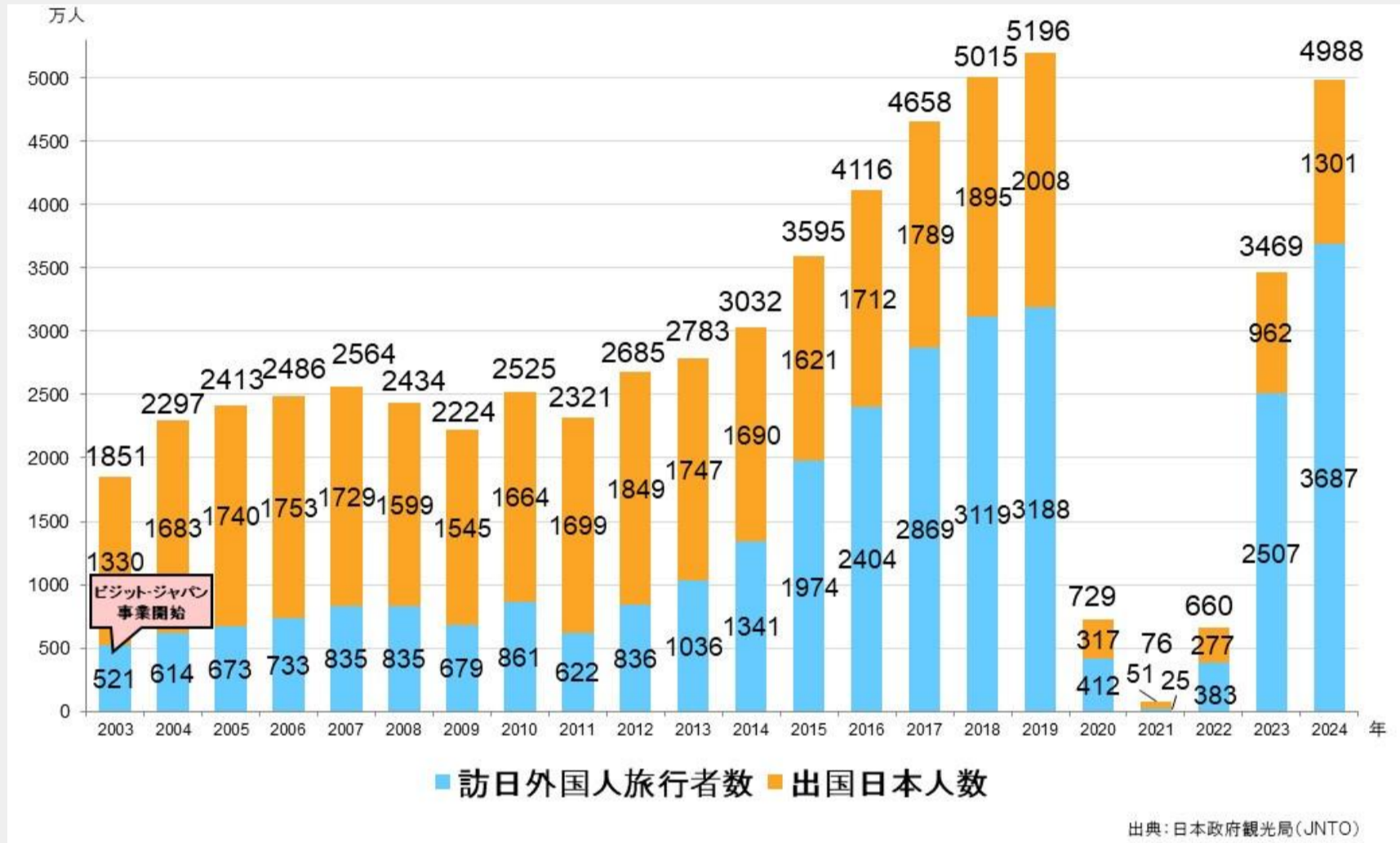
約**36,870,000**人



日本人出国者数 アウトバウンド

2024年

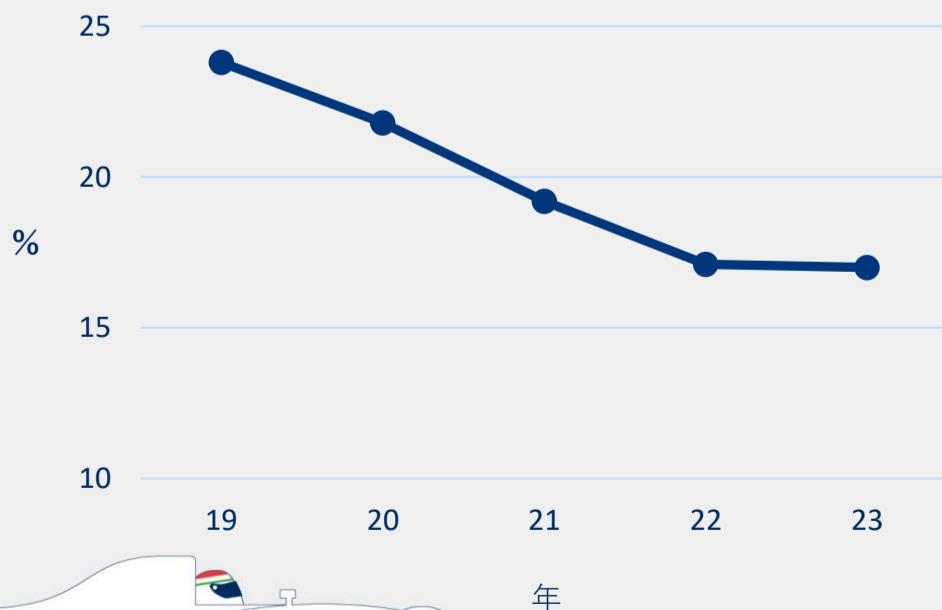
約**13,010,000**人



2024年インバウンド消費額 8.1兆円 (過去最高)

政府は**2030年**に訪日外国人旅行者数6千万人、消費額15兆円を目標

パスポート取得率



※コロナ禍前後で比較し、インバウンドに比べて、アウトバウンドの戻りが鈍い

日本人のパスポート取得率の低下

コロナ禍での海外旅行の制限や自粛により、パスポートの利用が減少したことや、円安等の影響もあり、若年層を中心に、海外旅行への興味が薄れている傾向も指摘されている。